



# PCGSの手変り (Variety) グレーディング申請にトライしました！

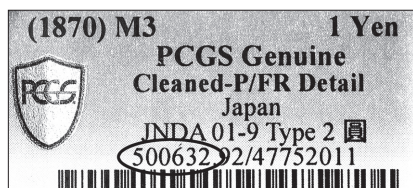
Aurized Coins 須崎 武

色々なテーマでのコレクションがある中、手変りを収集されている方もおられると思います。日本のコインでいえば、例えば貿易銀の大桐／長支脈／短支脈／対称脈、旧円銀の普通円／正員円／欠員円など様々ありますな。

私も手変り好きのひとりです。そんな中、グレーディングで手変り申請もやってみたいなと思うようになったんですよね。ならやってみるか！ということとで今回はそのトライした顚末です。

一般的に鑑定会社ではPCGSとNGCが市場の大半を占めていると思います。最近では国内のCAGも頑張っていますよね。PCGSやNGCは鑑定枚数をWeb上で公表しており、日本のコインを見てみると特にPCGSは主な手変り (Variety) も分類されています。

例えばPCGSでは、  
旧円銀の普通円有輪は  
[Type1 圓 w/Border]  
普通円無輪は  
[Type1 圓 NoBorder]  
といった感じです。



丸で囲った部分がPCGSでの分類番号です。Webではこの番号を基準にして鑑定枚数を見ることができます。



(写真1)

## PCGSで分類されて いない手変りの申請

一般的に知られていない手変りがあると思いますが、アメリカのコインがPCGSで手変り分類される条件はサイト (<https://www.pcgsc.com/varietyfaq>) 上で発表されています。

このページを読んでいると、日本等その他の国のコインを申請するには、コレクター間ではよく知られており、かつ書籍等にも載っているモノが良いのかなと想像しました。

例えばアメリカコインのカタログには、『A Guide Book of United States Coins (The Red Book)』というのがありますが、これに載っているバラエティはPCGSでも認定されているようです。日本の『日本貨幣カタログ』の分類も認定されていますね。

すでに分類されている手変りがあれば、申請時には該当するPCGS分類番号 (写真1) も一緒に伝えればスムーズに進むかと思えます。こちらが見落としていても彼らが気付いて適切に分類する場合もあると思います。

手変りコレクターの中にはこれらのカタログに載っていないモノでも申請したい方がおられるかもしれません。私はそんなひとりです。また手変り好きとしては、そういう事例を通して手変りに興味をもってもら

※本稿内でのスラプの画像は原寸ではありません